

水戸市地域猫活動 ガイドライン



水戸市動物愛護センター
令和3年6月

増えてしまった飼い主のいない猫に困っていませんか

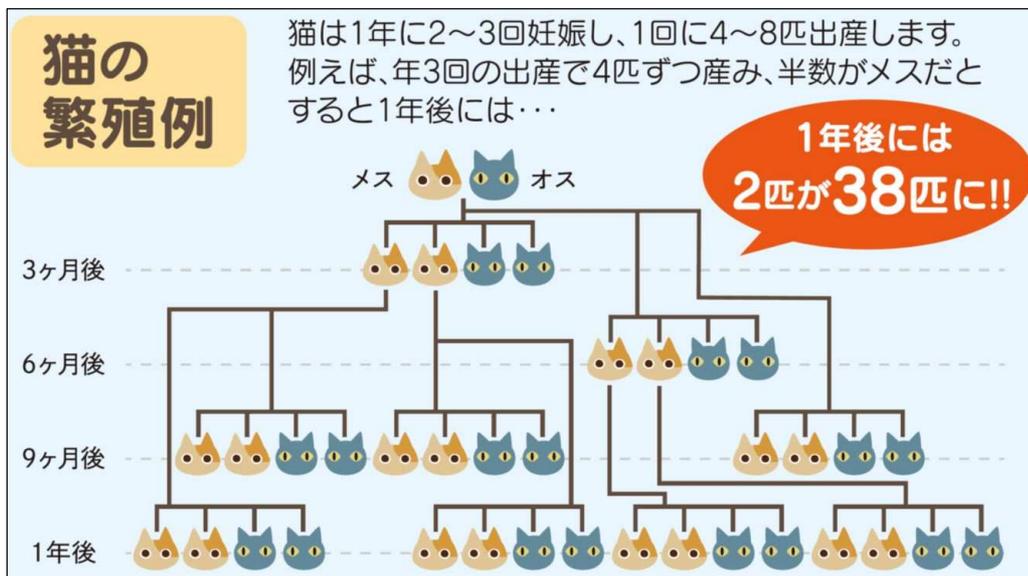
飼い猫を不妊去勢手術せずに外に出してしまうと……

飼い猫を不妊去勢手術せずに外に出してしまうと、その地域に住み着いている飼い主のいない猫や不妊去勢手術を行っていない他の飼い猫を妊娠させたり、また、妊娠させられてしまい、無秩序に飼い主のいない猫が生まれてしまいます。

飼い主のいない猫にエサを与えてしまうと……

こうして生まれてしまった猫が敷地に迷い込んだ時に、お腹を空かしている様子を見て、飼い猫として迎え入れるつもりはないのについついエサを与え続けてしまうと、そこがエサを貰える場所と認識してしまい、その地域の飼い主のいない猫として住み着いてしまいます。

このように、不妊去勢手術を行わずに飼い猫を外に出している住民や飼い主のいない猫へのエサやりが習慣化している住民が存在するなど、猫にとっての好条件が揃ってしまうと、その地域に住み着く飼い主のいない猫は、あっという間に増えてしまいます。



飼い主のいない猫が増えてしまうと……

飼い主のいない猫が増えてしまうと、敷地内への糞尿の被害、畑や花壇へのいたずら、発情やケンカによる鳴き声の騒音、自動車への引っかき傷の被害など、住民の生活環境が脅かされる事態を招いてしまい、猫が好きな方ならまだしも、猫の存在を受け入れられない方にとっては苦悩の日々を送ることになります。

このような事態を招かないためにも、飼い猫は屋内で飼養し、不妊去勢手術を実施すること、また、飼い主のいない猫には、無秩序にエサを与えないことが必要です。

そして、一旦増えてしまった飼い主のいない猫については、住民と猫との共生を図りながら問題を解決していく取組として「地域猫活動」が注目されています。

住民の皆さんで話し合い、「地域猫活動」を始めませんか。

飼い猫とは

特定の飼い主（所有者）に飼養されている猫をいいます。

水戸市では、「水戸市動物の愛護及び管理に関する条例（以下「条例」という。）」において、飼い主に対して、**飼い猫を屋内飼養**すること、それができない場合は、**不妊去勢手術を実施**し、首輪等の装着により、**飼い主がいることを明示**することを義務付けています。

屋内飼いの利点

- 糞尿やいたずら等によるご近所トラブルが防げる。
- 交通事故やケンカによるケガ、感染症を防げる。
- 家に帰ってこなくなるリスクを減らせる。



飼い主のいない猫とは

特定の飼い主（所有者）がおらず、屋外で人と関わりながら生活している猫、あるいは自活している猫をいいます。本ガイドラインでは、飼い主のいない猫のことを「野良猫」といいます。

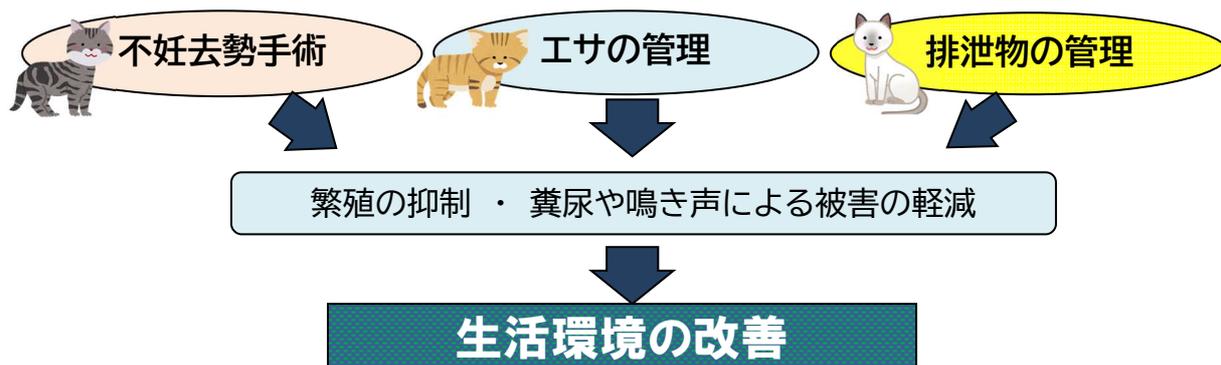
水戸市では、条例において、飼い主のいない猫に繰り返しエサを与える場合は、近隣住民等に迷惑をかけないように、**不妊去勢手術を実施**し、**エサや排泄物を適切に管理**するなど、生活環境を脅かすことがないように努めるよう義務付けています。



地域猫活動とは

地域に住み着いた野良猫について、地域の住民が主体となり、それ以上に増えないように不妊去勢手術を実施するとともに、地域で定めたルールに基づいてエサを与え、排泄物の管理を行い、その猫たちが命を全うするまでの一代限りで管理する活動を「地域猫活動」といいます。

野良猫を増やさずに、エサや排泄物等の適切な管理を続けることで、その地域の生活環境の改善が期待されます。



地域猫とは

地域猫活動に取り組む地域の住民が管理する、地域に住み着いた猫のことをいいます。

地域猫は、不妊去勢手術を行った際に、手術を実施していない猫との見分けがつくように、耳先にV字の切れ込みを入れることがあります。



地域猫活動を始める前に……

地域猫活動を始める前に、その地域内に野良猫が増えてしまった原因や野良猫が増えてしまったことによって発生している問題など、その地域における野良猫に関する状況の把握から始めましょう。

野良猫の被害に困っている住民がどの程度いるのか、その被害の具体的な内容は、また、野良猫に餌を与えている住民は存在するのか、野良猫の存在を許容している住民がどの程度いるかなど、状況を把握することにより、その地域の実情を踏まえた地域猫活動に取り組むことができます。

地域猫活動の基本的な考え方

- ① 野良猫の問題を地域の問題として、地域の住民が主体的に取り組むこと。
- ② 地域の猫の飼い主が、飼い猫を適正に飼養することが前提になること。
- ③ 野良猫を排除するのではなく、命あるものとして取り組むこと。
- ④ 猫が好きでない人の立場を尊重すること。
- ⑤ 野良猫からの被害を受けないための対策にも取り組むこと。

地域猫活動を始めてみましょう

1 地域猫活動のための準備

活動グループを形成しましょう

地域内には、野良猫の被害に困っている方や、それが原因で猫が嫌いになっている方もいる一方で、猫が好きな方をはじめ、「これ以上猫を増やさないためであれば」、「その猫の一代限りの管理であれば」と、地域猫活動に理解を示し、協力してくれる方が必ずいるはずです。

こうして、地域猫活動に協力してくれる方が集まれば、地域猫活動グループを形成して、準備を進めていきましょう。

- 野良猫の平均寿命は3～5年。活動期間がそれよりも長くなることを見据えてグループを形成しましょう。
- 地域内で野良猫にエサを与えている方がいる場合は、メンバーに加わってもらいましょう。
- 動物愛護センターに相談し、地域猫活動の経験が豊富なボランティアで協力してくれる方がいれば、メンバーに加わってもらいましょう。



地域住民の理解を得ましょう

地域猫活動による期待した効果を得るためには、地域の住民が活動を正しく理解し、お互いの立場や考えを尊重しながら、継続した取組が必要になります。

住民の理解なく活動を始めてしまうと、「エサを与えることで野良猫がさらに増えてしまうのでは」、「野良猫を可愛がっているだけで何も変わらないのでは」といった不安や誤解を招いたり、また、不妊去勢手術の際に外にいた飼い猫を野良猫と誤って捕獲してしまうなど、住民間のトラブルを招いてしまうこともあります。

活動を始める前に、住民に対する地域猫活動の趣旨をしっかりと説明し、十分に理解を得ておきましょう。



- 町内会の会長等に相談しながら、地域の住民への説明方法等を決めましょう。9ページの周知用リーフレットを参考にしてください。
- 説明会を開催する場合は、必要に応じて、動物愛護センターやボランティアに協力を依頼しましょう。



地域猫として管理する猫を明らかにしましょう

地域猫として管理する猫は、偶然迷い込んでしまった猫にエサを与えてしまうことでその場に居ついてしまうのを防ぐとともに、誤って飼い猫に不妊去勢手術を実施してしまうトラブルを避けるため、対象とする猫を特定しておく必要があります。

その地域に元々住み着いている野良猫なのか、一時的に迷い込んだ猫ではないのか、外に出している飼い猫が紛れ込んでいないか、事前に把握しておきましょう。

- 管理する猫として特定した猫は、活動グループの皆さんで情報を共有するために、写真や特徴等を記載した台帳等により管理しましょう。

特徴：大きさ、推定年齢、性別、毛の色 など

その他：不妊去勢手術の実施日、治療歴 など



2 不妊去勢手術の実施

不妊去勢手術の準備をしましょう

地域猫として管理する猫については、子猫を産んでしまい、それ以上増えることがないように、不妊去勢手術を行いましょう。

不妊去勢手術を行うことで、発情期や縄張り争いの喧嘩に伴う鳴き声の軽減が期待できます。

また、不妊去勢手術の際は、事前に動物病院に相談しておきましょう。

- 手術する動物病院及び手術日が決定したら、手術前の注意事項や搬入方法、搬出予定日など、動物病院に確認しておきましょう。
- 市から手術費用の補助を受けられる場合がありますので、事前に動物愛護センターに問い合わせてみましょう。



捕獲の準備をしましょう

手術日が決まれば、その日に合わせて、対象とする猫を捕獲するための準備を進めましょう。

人に馴れている猫であれば、手術日に合わせて容易に捕まえられますが、人に馴れていない猫は捕獲器を用いて捕まえるのが確実です。捕獲器の取り扱いに馴れていないと、手術日に合わせた捕獲ができず、動物病院との再度の日程調整が必要となりますので、余裕をもって捕獲の準備を進めましょう。

また、捕獲する当日は、誤って飼い猫が捕獲されてしまうことがないように、事前に地域の住民に対して捕獲日を周知しておくことが必要になります。

- 捕獲器は動物病院で貸出を行っている場合もあるし、動物愛護センターでも貸出を行っていますので、問い合わせてみましょう。
- 警戒心が強い猫は、期間をかけて捕獲器に馴れさせる工程が必要になりますので、準備を計画的に進めましょう。
- 捕獲器に馴れさせるためには、捕獲器を新聞紙等で包んで中を暗くすることで落ち着く空間を作り、しばらくは入口の蓋が閉じないよう留めた状態のまま、捕獲器の中で確実にエサを食べるように仕向けていきましょう。



捕獲器



新聞紙で包んだ状態の捕獲器

不妊去勢手術をしましょう

不妊去勢手術の当日の動物病院への猫の搬送時は、慣れない状況に暴れ出す猫もいますので、ケガしないように十分な注意が必要です。

また、手術後は、動物病院の指示に従い、安静状態を必要とする期間中は、他の猫との接触を避け、ケージ等に入れた状態で個別に管理しましょう。



- 手術の際に耳先にV字の切れ込みを入れてもらうと、不妊去勢手術を行った猫の見分けがつかます。手術を受けさせる前に動物病院に確認してみましょう。



3 エサの管理

エサを無秩序に与えてしまうと、管理する地域猫以外の猫やカラスなどの野生鳥獣がエサを目当てに集まるだけでなく、ハエなどの衛生害虫の発生源となり、生活環境のさらなる悪化を招いてしまいます。

エサを与える場所と時間を限定し、食べ終わった後の食べ残しは速やかに撤去するなど、ルールを定めて適切に管理しましょう。



- 同じ場所、同じ時間に適量のエサを与えましょう。
- 管理する猫以外の猫は、居つかせないために、エサは与えないようにしましょう。
- 決めた時間に食べに来ない猫がいたとしても、エサを放置しないようにしましょう。
- 猫が食べ終わったのを確認したら、必ずエサを片付けし、周辺の清掃を行いましょ



4 トイレの管理

管理する地域猫に対しては、糞尿による被害を受けている住民の敷地以外の場所に新たなトイレの場所を設けないと、やり慣れた場所での糞尿が続いてしまうため、被害は一向に改善されません。

特定の場所以外で糞尿をさせないように、猫が安心して排泄できる場所に快適なトイレを用意し、ルールを決めて適切に管理しましょう。

- エサを与える場所から遠くない場所にトイレを用意しましょう。
- トイレの場所とする敷地内に、排泄に適した土や砂がない場合は、プランターや箱型の発泡スチロール等に柔らかい土や砂を敷き詰めて、トイレとして活用してみましょ
- 猫の頭数に見合った広さや数のトイレを用意しましょう。
- トイレと認識させるために、土や砂にマタタビを混ぜたり、糞尿の臭いのついた土や砂を混ぜてみましょ
- トイレの掃除は、エサの時間に合わせて行うなど、決まった時間に掃除し、清潔を保ちましょ



5 猫の飼い主への周知

地域猫の不妊去勢手術を行っても、その地域内で猫を飼っている住民が不妊去勢手術をせずに外に出してしまうと、その地域以外の野良猫と接触し、子猫を産んでしまい、野良猫が増えてしまったという事態を招きかねません。

そのような事態を避けるためにも、猫を飼っている住民には次のことを守ってもらいましょ

- ★ 屋内で飼養する。
- ★ 不妊去勢手術をする。
- ★ 首輪や名札を装着するなど、飼い主がいることを明示する。

6 地域猫の管理

野良猫は、感染症や交通事故、猫同士の喧嘩など、常に病気やケガのリスクに晒されているため、平均寿命は短く、飼い猫が15年程度のところ、野良猫は3～5年とされています。

新たな猫が生まれることが無く、近隣地域から来た野良猫が住み着かないように適切に管理を続けられれば、今いる猫の一代限りの寿命を迎えることで、その地域に野良猫はいなくなります。

しかし、地域猫活動を途中でやめたり、その地域で定めた管理ルールを徹底されずにいると、すぐに元の状態に戻ってしまいますので、住民の皆さんで協力しながら活動を継続していきましょう。

- 地域猫の個体管理台帳等をもとに、日頃から、管理する猫の増減を確認しながら、新たな猫が住み着かないように注意しながら管理を続けましょう。
- 地域内の住民に対して、定期的に、猫の頭数の推移を含めた活動の実績を報告しましょう。



7 野良猫の侵入防止対策

地域猫活動を進めると同時に、野良猫の被害を受けている方については、ご自信で、敷地内に野良猫が入ってこないための対策を取ることによって、被害をさらに軽減させることが期待できます。

臭いを利用した猫よけ対策

猫は臭いに敏感なため、敷地内の猫を良く見かける場所に、次のような対策を繰り返し、慣れた様子があれば種類を変えながら、試してみましょう。

- 食酢や竹酢液、木酢液、市販の忌避剤を染み込ませた布等を置く。
- きざんだニンニクや唐辛子、コーヒーやお茶のでがらし、コショウなどの香辛料、みかん等の柑橘類の皮などを撒く。
- 香りの強いハーブ類を植える。



その他の猫よけ対策

猫の侵入経路や良く見かける場所に、侵入を防ぎ、居座らないように、次のような対策を試してみましょう。

- 金網やネットを張ったり、トゲのある植物を植えて進入経路を断つ。
- 水を撒いたり、センサー式のスプリンクラーを設置する。
- 突起物がついた猫除けシートを敷く。
- 超音波（猫が嫌う音）発生装置を設置する。



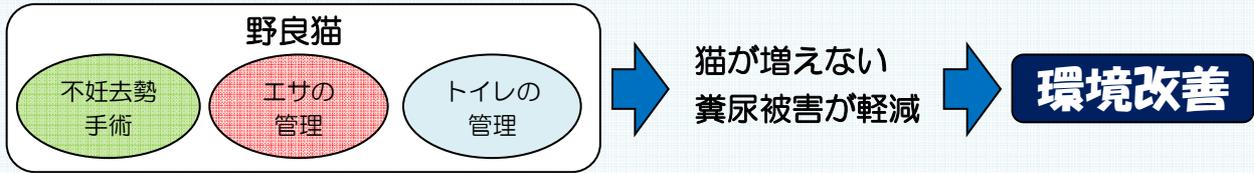
住民の皆様へ

町内において、住み着いてしまった野良猫による糞尿や鳴き声等による被害が発生しています。住み着いてしまった野良猫は、地域で見守っていくしかありません。

住民と野良猫が共生を続けながら、野良猫による被害を軽減していくには、「地域猫活動」が効果的だといわれています。「地域猫活動」に取り組んでみませんか。

地域猫活動とは

地域の住民が主体となって、地域に住み着いた野良猫を今以上に増やさないための不妊去勢手術を実施し、今いる野良猫の命が続く限り、エサや糞尿を適切に管理することで、生活環境の改善を目指す取組です。



どのように進めていくの？

地域の皆さんの理解を得て、活動に協力いただける住民とグループを形成し、動物愛護センターやボランティアの支援を受けながら、野良猫の管理を行います。

不妊去勢手術はなぜ必要なの？

子猫が生まれるのを防ぐだけでなく、発情に伴う鳴き声の軽減が期待できます。

エサはどのように管理するの？

活動メンバーでルールを決め、決まった場所・時間で、地域で管理する野良猫以外にはエサを与えないように管理します。これにより、他の地域から野良猫が居ついてしまったり、野生鳥獣が集まるのを防ぐことができます。

糞尿はどのように管理するの？

エサを与える場所の近くに土や砂を活用したトイレを設け、活動メンバーで衛生的に管理します。これにより、敷地内の糞尿による被害が軽減されることが期待できます。

活動はいつまで続けるの？

野良猫の平均寿命は3～5年です。適切に管理し、子猫が生まれることなく、他の地域からの猫の移住がなければ、今いる野良猫の寿命を迎えて、活動終了となります。

しかし、皆さんの協力がなく、途中でやめてしまうと、元の状態に戻ってしまいます。

猫を飼っている方へ

地域猫活動を始めるにあたり、飼い猫について、次のとおりご協力をお願いします。

- 屋内で飼うようにしましょう。
- 不妊去勢手術を実施しましょう。
- 飼い主がいることが分かるように、首輪や名札を装着させましょう。

地域猫活動にご意見等がある方、ご協力いただける方はご連絡ください。

〇〇町内会長 〇〇 〇〇

問い合わせ先

水戸市動物愛護センター

〒311-4153 水戸市河和田町 999 番地

電話：029-350-3800

FAX：029-350-3802

